



感謝の倍返し

加藤直人

アラウンド
GOGO
55

ろうと、とちろうがなんだろうが受け止めて意見をもらえる場だと実感した。
そうだから討論は生き生きして楽しい。障害当事者もどしどし。出席者の熱い心情と連帯感を肌で感じた。だから毎年参加したくなる。これを改めて知らしめた蘭部さんありがとう。

和歌山で33年間共同作業所などの仕事をしてきた。

全障研といえば就職1年目の夏、確か第13回大会で「たつこの共同作業所」の実践を報告したのが出会い。和歌山でも作業所は今風に言えば「障害のない他の者との平等を求めて」手探りでスタートした。元から制度や資金があるわけではない。しかし全国で同じ夢を持った仲間たちがいたことが私たちを元気にさせた。

その間に障害者分野も措置制度が解体され契約に変わり福祉も営利企業が参入する時代になった。市場競争でよい

のか？ 高齢、保育分野もこれにさらされる中で障害分野から反旗を翻したい。

事実、2010年の基本合意はその端緒だ。だから今進行中の社会保障改悪プログラムに黙るわけには行かない：とつい熱くなるのだ。

*

僕自身は全障研には長らくごぶさただったが、2009年の第43回茨城大会に蘭部事務局長に誘われて以来、44回名古屋、45回大阪、46回広島、今年47回弘前と連続して大会分科会の役割を持たせてもらった。全障研大会の分科会は、些細なこと、初歩的であ

お礼ついでにもうひとつ、この場を借りて。30数年前、

就職あぶれ組の何もわからず和歌山に来た自分を長い目と広い心で受けてくれた作業所関係者となかまのみなさん方には今もって感謝の念を持っている。教わったことを一つあげるならば、「障害のあるなかまたちに学べ！」だ。

感謝を述べたからといってこれで終わるわけではない。「これから始まるのだ」。今までの仕事を卒業し、本当の運動をこれからみんなと始めた。感謝の念の倍返しだ(今時風にね)。

失語症の劇団の記録映画 +おいしいワインで懇親会 シネマぱぶ 「言葉のきずな」 上映&トーク



10月25日(木)、渋谷のアップリンクで第6回シネマパブが開かれました。今回の作品は、失語症の人たちが障害と向き合いながら演劇にとりくむ記録映画「言葉のきずな」。自分の思いを伝えたいという当事者の強いねがいと、そのねがいを受けとめながら、ともに歩む家族の姿がいていねいに描かれています。上映後は、田村周(あまね)監督の話を聞いて、ワインと料理を囲んで懇親会も行われました。

10月25日(木)、渋谷のアップリンクで第6回シネマパブが開かれました。今回の作品は、失語症の人たちが障害と向き合いながら演劇にとりくむ記録映画「言葉のきずな」。自分の思いを伝えたいという当事者の強いねがいと、そのねがいを受けとめながら、ともに歩む家族の姿がいていねいに描かれています。上映後は、田村周(あまね)監督の話を聞いて、ワインと料理を囲んで懇親会も行われました。

当日は、藤井克徳きょうきれん常務理事も参加。東日本大震災における障害者の被災実態を訴える映画「生命のこ

とづけ」(JDF制作)の中国

語字幕版を「台湾障害者映画祭」で上映したことが紹介されました。ちなみに：この日に用意されたワインは、藤井さんから提供されたオリジナルワイン「つながり」でした。

今回の企画は第5弾「つながり映画祭」のプレ企画です。映画祭は、12月5日(木)から9日(月)までアップリンクで開催。障害者テーマにした21本の作品が上映されます。とくに7日の「メイントーク」は要チェックです！

◎12月7日(土) 15時30分、16時40分「日本映画における障害者の描き方・描かれ方」二通論(札幌学院大学・藤井克徳(きょうきれん))